

「行政改革推進市民懇話会」第6回会議の概要

総務部行政改革推進室

- 1 開催日 平成16年3月26日(金)
- 2 会場 いきいき元気館3階ホール
- 3 会議時間 午後4時30分開会、午後6時10分閉会
- 4 出席委員 26名
- 5 欠席委員 4名
- 6 市出席者 23名(堂故市長、中田助役、木下収入役、國本企画広報室長、前辻総務部長、横澤市民部長、横山建設部長、飯原産業部長、大門市民病院事務局長、舟塚教育次長、脇消防長、吉崎企画広報室次長、永田行政改革推進室長、船場総務課長、尾崎財務課長、行政改革推進室職員：濱井、廣瀬、高橋、東海、東軒、高林、九澤、京田)
- 7 傍聴者 3名(議員2名、川崎議会事務局長)
- 8 協議案件

行財政健全化緊急プログラムの進行状況等について

昨年10月、市が策定した行財政健全化緊急プログラムについて、現時点における進行状況(具体的な改革項目の取り組み状況、数値目標の達成状況、補助金・負担金の見直し状況)と平成16年度の予算概要についての説明があり、委員から質疑応答や意見交換が行われた。

9 会議録(発言の要旨)

主な発言内容(要旨)	
会長	委員の皆さんには何かとご多用の折、ご出席を頂き感謝申し上げます。久しぶりの開催であり、互いの顔が懐かしく思われる。 行革というのは、これまで為政者がなすべきことを怠ってきたことにも原因がある。市でも改革を進めているが、期待と若干異なる面も出ている。市民の声もいろいろ聞いている。 今日の会議では、市から取組状況等について報告を受け、委員の皆さんから貴重な意見を承りたい。
市長	委員には、多忙のところ、本日の会議に出席してもらい、感謝している。 昨年4月24日にこの懇話会を立ち上げて以来、早いもので1年近くが経過した。

市では、報告を頂いた提言を踏まえ、昨年10月に「行財政健全化緊急プログラム」を策定し、諸改革の具体化に取り組んできた。

最大の改革項目である人件費の削減については、職員労働組合に見直しを申し入れた項目のうち、これまでに、職員給与5%相当額の減額、一般職55歳・現業職57歳での昇給停止、退職前の特別昇給の見直しについて合意が得られた。

また、職員の削減では、医師・看護師等を除き、平成14、15両年度の退職予定者64人に対し、採用は5人に止めており、59人の減員を図る。

ただ、ワタリ制度を含む昇格昇給基準の見直し等については、現在交渉を続けており、今後できるだけ早く、解決しなければならないものと考えている。

プログラムに掲げた財政収支の改善目標については、計画初年度の平成15年度は概ね計画どおりの達成が可能であると見込んでいる。

しかしながら、計画2年目となる平成16年度は、市税収入が予想以上に落ち込む見込みであることや、プログラムに織り込んでいなかった、予想の域を超えた三位一体改革の影響(約6億円の減収見込み)により、財源不足が拡大し、基金の一部を取り崩さざるを得ない、極めて厳しい予算編成となった。

このため、国に対し、税源移譲と権限移譲を伴わないままでの国庫補助金の廃止・縮減や、一方的な交付税の削減は遺憾である旨、全国市長会から緊急に申し入れをした。

こうした状況の変化を受け、今年度においても、地方交付税や補助金改革などの国の方針が明らかにされた時点で、プログラムを見直す必要があるのではないかと心配している。

その際には、皆様にご説明を申し上げたいと考えている。

行財政改革は、将来の氷見市の土台を築き上げるためのものであり、市民の皆様にも、理解と協力を頂き、市民と一体となった改革を着実に推進していかなければならない。

今後も、市民と情報の共有化に努め、市民にとってわかりやすい情報を提供し、多くの市民の皆様理解して頂けるよう心掛けていく。

委員には、引き続き力強い支援と協力をお願いしたい。

また、今日の会議では、プログラムの進行状況等について説明し、皆様から、率直な評価や意見、提言を聞かせ頂きたいと思っているので、宜しく願いたい。

なお、この懇話会の委員の任期は1年であるが、再任を妨げないこととしているので、皆様方には引き続き市民の代表として協力していただくよう、この場を借りて、お願い申し上げます。

行財政健全化副部長

平成15年度決算と平成16年度予算と比較すると市税収入が減少している。予定と違ってきている。現時点における5年程度の見通しを示す資料を出して欲しい。

三位一体の改革の実施で国からの交付税がどのように変わるのか、税源委譲はどうなるのか説明して欲しい。

総務部長

一点目の税の見通しについては、予想と差異が出た理由として、全国の動向を問わず地方財政計画では、法人市民税が良くなるという見通しを示しており、全国的には、個人市民税の落ち込みを法人市民税がカバーしているということである。

一方、氷見市においては、もともと法人市民税の占める割合が僅かであり、また、大部分を占める個人市民税の落ち込みが大きいということが税収見通しの減少した理由である。今後は企業の収益動向がどうなるか私たちの個人所得に対してどのように動くか推移を見守りたいと考えている。

委員	<p>二点目の三位一体の改革については、現時点でお示しすることは出来ない。今後、国の動きを見ながら説明させていただきたい。</p> <p>先日、市長と国へ行ってきたところ、今年以上に厳しくなるということは、間違いないようだ。具体的な内容は、12月末の財務省と総務省との折衝で決定される見込みだ。今後も様々な情報の把握に努めたい。</p>
総務部長	<p>会社の予算編成と異なるところがあるので教えて欲しい部分がある。資料3の2で、一般会計と事業会計が出ているが、病院も水道も採算重視という説明が以前にあった。</p> <p>新年度に病院に約190百万円の新規投資をするということであるが、一般会計から事業会計へ持っていくということは企業ではあり得ない。補填を繰り返しながら事業会計で赤字を出している。おかしいやり方である。こういうやり方を今後どう改革していくのか。抜け道ではないか。事業会計はその範囲内で投資をし、知恵を出していくというのでなければいけないと考える。</p>
委員	<p>委員の指摘のとおり、事業会計は独立採算が基本である。ただ事業会計の仕組みとして、公営企業法において、一般会計から事業会計に繰り出すという仕組みがある。</p> <p>病院が大きな投資する理由は、CTスキャンが老朽化しているため、更新する時期に来ているということである。更新に当たっては、市民サービスの観点から現在の機械と同等性能のものではなく、最新の高性能のものを導入する必要はある。</p> <p>こういうものを買うために起債を発行すると、国から交付税で還元されるという仕組みがある。交付税は一般会計に入ってくるので、これを病院会計へ繰り出すというものである。これだけのために新たに一般会計から独自の判断で繰り出すというものではない。</p> <p>また、この医療機器を購入することで、市民サービスの向上、患者の増加につながり、試算の上では収益がプラスになるという結果が出ている。</p>
市長	<p>ずっと6万人定住と200万人交流というアドバルーンを上げているが、6万人定住の面で抜本的な対策がなされていない気がする。他所もこうだから氷見も出生率が低下しているということかもしれないが、とにかく若者の定住はもちろん、よそから氷見に移り住んでもらうための対策があると思う。例えば、3人目の子どもに対しては、学校を卒業するまでお金をいくら補助するということではできないか。</p> <p>現在、だんだんと人口が減っている。定住対策がなされていないと考える。200万人交流の面では、いいかなと思うことはあるが、6万人定住の面では、これでもか、これでもかと思う必要があると思う。</p> <p>大事な視点ではあるが、日本の社会全体の子どもを持つということに対しての価値観が変化してきている。発言されたことを実現するには、相当の税がかかる。市民の収入の半分ぐらいを出すぐらいのことをしてもらう必要があるかもしれない。スウェーデンでは一時的に歯止めがかかったということも聞いているが、大変困難なことである。</p> <p>ただし、諦めるのではなく、総合計画の期間を超えても6万人ぐらいが住めるまちづくりをずっと目指していきたい。カンフル剤というのは大変難しいかもしれないが、おかげさまで道路や水道、下水道などが整備されてきた。能越自動車道も見えてきた。足りない部分はこれから総合的な施策で進めていかなければならない。</p> <p>特に住宅政策が大事な視点であると思う。氷見は社会資本が整えば、自然環境や文化、美味しい食べ物もある。住むところに相応しいということを強調し、もっとアピールしていかなければならない。</p>

	<p>それから、この4月に産業・雇用おこし対策本部を立ち上げたいと考えている。私が本部長となって是非推進したい。これは定住していただき、子育てを支援する一番良い方法ではないかと思う。従来は、商工観光課だけが行っていたが、産業を考える上では、福祉も環境も様々な広い分野で産業・雇用を考えていかなければならない。雇用も市内の雇用だけではなく、高岡でお勤めの方、国の機関や県の機関、そして何より商工会議所とともに真剣に掘り起こしを考える時期であると思っている。そういう意味で、特に住宅施策と産業・雇用おこしに当面力を入れて頑張っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料1の3頁目の組織・機構の見直しについては少ししか書かれていない。先程説明にあったが、全体会計で59人減ということで、一応65人減を目指しているのだが、自然退職を見込んだ消極的なものであると思う。今日の新聞で、県内他市町村で課を統合し、組織のスリム化を図るという記事を見た。氷見市でも組織のスリム化については書かれているが、検討項目になっているだけである。人員の削減は、退職で自然に減るのを待つことや、早期退職優遇制度の創設など、側面から探っていく方法もあるが、抜本的に組織をスリムにしないと人員は減っていかない。</p> <p>実際、市議会議員が22人から18人に減らすということができるのである。減らされれば議員一人ひとりの負担や責任も増えてくると思うが、市も組織から大胆にやっていく必要がある。民間の会社であれば子会社化や支店の閉鎖などを行っている。この程度の消極的な見直しではなく、一番問題の人件費を削減するには、もっと大胆な手法をすべきである。民間活用やアウトソーシングなどを言っている割には、組織・機構の見直しの形が見えてこないという感じがする。もっとスリム化について、平成16年度から真剣に考えていければ良いと思う。</p> <p>また、能力実績主義に基づく人事管理システムの導入やOA化などで、もっとも人間を減らすことは可能であると思う。</p>
<p>助役</p>	<p>平成14年度には、6部を4部に減らすとともに、課の縮小にも取り組んだ。そういうことから今回は大きな手直しをしなかった。そうした見直しの後も必要などころには手を加えている。</p> <p>特に、氷見市には、今まで課に係があった。これだけ人員を削減していく中で、縦割り行政の弊害を取り除かなければ、行政が円滑に行かないということであり、係制を無くした。そして、班というシステムを新たに作り、人員を流動化させた取り組みを進めている。システムは今後研究していく必要があると考えるが、既にこのような取り組みを行ってきた。</p> <p>新年度については、市長が述べたように、産業・雇用おこし対策本部のような横断的な組織をつくり、人員を活用していくための配意をした。</p>
<p>委員</p>	<p>行財政健全化緊急プログラムに掲げる数値目標の状況についてお尋ねしたい。平成16年度の計画では、入ってくるお金が14,600百万円、出て行くお金が15,300百万円ということであるが、普通、企業では差引をゼロにする。企業ではこんなことはあり得ない。こんな予算は無い。何としても切る。はじめから借金して、また、どこかの積立金から出してくるというのか。住民にとってやってはいけないことではないか。ある金でどういう風にやるかということを考えるのが市役所の役目だ。</p>
<p>助役</p>	<p>確かに企業会計では、お金が入ってこないと事業が成り立たない。私どもも収支をゼロにしようという予定である。この予算において努力をしていくということで収支不足の解消を目指したいということで理解していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>それは違う。お金がたくさん入ってきたら、繰越金として持っていくというのが普通である。税収も増えないのに、このような予算編成の文化を創ってい</p>

るようでは、健全財政にならないのではないかと。文化という面では、どこの市町村もこういう事を行っている。氷見だけではない。だから、氷見は早くこういう文化から脱却すべきである。これでは財政の健全化は絶対あり得ない。国からお金を取ってくることも大切であるが、まず難しいことではあるが帳尻を合わせてスタートするべきではないのか。

市長

国全体でこのような状況にある。氷見市が自前でやるのなら言われることは当然だろう。市の収入の大宗が資料のとおり、6,800百万円の交付税で成り立っている。これが今年の初頭に左右した訳である。これを歳出で制限できるかという、福祉など、多くが固定化されており、財源不足のために努力していかなければいけないというプログラムではあるが、今年度に、歳入に見合った歳出に削減できるかという市民の皆さんに対するサービスが急激にいろいろところでストップしてしまう。

投資的経費も1,000百万円に切り詰めたが、実は過去の清算に関するものが半分以上を占めており、これからのまちづくりに使えるお金は4~500百万円程度しかない。職員の給料も公的な縛りがある中で努力をしてこのような予算になった。言われたように帳尻を合わせていくことも当然考えていかなければならない。

委員

こういう状態を続けていくとどうなるのか。

市長

財政再建団体になるだろう。なっちはいけない。幸いなことに財政調整基金や減債基金、その他の基金を持っている。年度内に足りない部分はそれで補うことも財政的には重要な手段であると思う。ただし、来年も再来年もということはあり得ないし出来ない。

国では地方がこういう状態になることを見越して、財政調整基金を持っているから少し吐き出させようという意図があるのではないかと。地方がやっけないような税の体系、税収の3分の2が国で、地方には3分の1しか来ないという状況で、国が一方向的にこういうやり方をどんどんやっていくというのは考えられない。

委員

やはり民間化や抜本策には限界があるということが、この会議を貫くひとつの原則であるという感じで聞いている。私は、改革会議の時には改革一本槍で意見を述べさせていただいた。

その後、全国や少なくとも県下の合併問題の行方に関心があり注意をはらってきた。氷見市では、合併するなら中核市であり、そうでない場合は単独で行こうというのが合併問題懇話会の結論であり、市長の選ばれた道を「良かったなあ。」というのが今の私の率直な感じである。特に他所のケースを見ていると協議会までが破綻してしまうという状況がある。他山の石として学んでおかなければならない問題が数多くあると思った。

こういう流れの中で現在プログラムを進めている。これを進めている人たちの気持ちが「やり抜こう。」という思いになってもらわないといけない。これが諮問した後の進捗状況を聞いていく私たちの基本的な姿勢ではないかと思う。私個人としては、プログラムは是非予定通りに達成して欲しいし、職員も全力で臨んで欲しい。

あえて言うとなれば、今も頭から離れないが、合併協議をしていたころ、県内9市を比較した財源の多くの指標で、氷見市は、最下位もしくは下から2番目というものであった。これは、今のプログラムが進行する中で視野の中に入ってくる問題であると思う。今着手している問題を着実にこなして欲しい。もう矢は弦を離れているのであるから、やっていることが達成できるための問題について皆さんの知恵が寄せられるべきではないかと思っている。

市長

これからも当時皆さんと一緒に考えていただいたときのことを思って、達成に向けて全力を尽くしていく。

委員

今ほど予算的に厳しいという話が出ていたが、プログラム計画額から見れば、大幅に赤字ということであり、やはりやるべき事をいろいろと検討しなければならないのではないかと思う。先程指摘があったが組織の問題についてどう縮小したか目に見えてわかるところもあるが、一方、当初からの問題となっている人件費、或いは議会等で問題となった課長級がたくさんいるというようなところも含めて組織等の大きな枠での見直しを目に見える格好でしていけば、改善ができるのではないかと思う。

予算概要説明の中で、理解できない点があった。これだけ厳しい状況の中で、例えば、既に工事行われている柳田布尾山古墳の費用や、資源リサイクルの畜産環境に関する費用や、田園漁村空間博物館の費用は本当に氷見市民は求めているのか。単独を選んで痛みは出すという表現でこういう格好になっているが、実際そういうところの投資と市民の痛み、市民の皆さんはどちらを選ぶのか。あえてこういうことをして財政が厳しいというのは疑問を感じる。

先程指摘された6万人定住を実現するためには、果たしてこれが必要なのか。また、なぜ高岡方面に若者が出て行くのか。そこを深く考えて欲しい。学校統合の話も出ているが、やはり、山のほうに学校が無くなることによって若者が出て行く。仕事が、高岡、富山ならばあえて氷見のまちに家を建てない。本当の意味の費用対効果をもうちょっとシビアに見るべきではないかと思う。住みよい都市基盤づくりの中で、能越自動車道ができれば当然インターチェンジも作ることになるがそういった費用は市民全体にかかる費用であると考え。しかし、マリノバージョン計画もまだやるということで、この事業がどこまで必要なか実際本当の意味で見直していただき、市民が納得できる改革を進めていかないとこのプログラムに出ている予算を見ても、更に厳しくなるとい見通しの中で、納得できるかというところまず出来ない。ぼやっとした改革ではなく、明確な将来進むべき方向性を出す時期に来ているのではないかと思うので、もう少しシビアな計画が必要ではないか。

助役

総合計画に基づいて計画的に事業を進めているわけであるが、行政はトータルで様々な市民のニーズを総合的に調整をしながら予算配分をしている。もちろん市民の代表である議会に諮って進めているわけであるが、例えば、文化面から、漁業面から、若い人から等様々なニーズを総合的に組み込んでいる。

現在のように厳しい状況の中で、これが必要かどうかといわれることについては、私ども行政も投資したらっ放しというのではなく、今後行政の事業評価をやっていこうと思っている。本当にこの事業は良いのかどうかということも事前も含めて、より事業効果の上がる、税が無駄に使われないような姿勢、心構えでやりたいと考えている。

市長

いろいろな施策の財源について、国・県・市それぞれの負担と責任がある。例えば古墳の整備であれば、一級の文化財を残していくという国として立場、施策というものもある。実際に国がどれだけ負担しているか。また、上庄小学校の跡地の公民館整備についてもどのくらい市が負担しているのかを市民の皆さんにはっきりわかる形で説明しないと誤解を受けてしまうのではないかと思う。

本当に必要かといういうことを厳密に見ることと同時に財源や責任の所在、整備した後の事業評価なども市民の皆さんに分かりやすく説明することも必要ではないか。

委員

箱物行政であり、今になってなお追加する必要があるのか。

助役	<p>新たな箱物というのは、上庄の獅子舞ミュージアムだけであると認識している。柳田布尾山古墳は箱物ではない。</p>
財務課長	<p>資料の平成16年度予算については、国や県の補助が含まれた事業費総額で記載されているので、指摘のあった資源リサイクル畜産環境整備事業(家畜の排泄物処理)については、約106百万円であるが、氷見市が助成するのは10百万円であり、起債が入っているので実質6百万円の負担になる。また、CTスキャン等医療機器の事業費は186百万円であるが、そのうち80百万円程は交付税措置等で還ってくる。ここに書いてある事業費すべてが一般財源から出るというものではない。</p>
助役	<p>プログラムをはみ出して事業をしているという誤解があるのかもしれない。平成16年度予算は決してプログラムをはみ出しているものではない。また、人件費についても、保育所のように人件費そのものが事業に近いものもあるので理解していただきたい。それを切ると全く保育が成り立たないという部分もある。</p> <p>このままでは財政が破綻するという話もあったが、プログラム通りに進む努力をしているので、財政再建団体の道は歩まなくてもいいという結論は出ている。そういう努力や毎年のプログラム見直しをやっていくことにしていることも理解していただきたい。加えて起債についても、当初の35,000百万円をプログラム最終年度にはだいたい30,000百万円にするということで、抑えている。他市では増えるところも多いようだが、本市は努力しているということを理解していただきたい。</p>
委員	<p>会議の機会があるごとに箱物にこだわってきた。この会議の場所の元気館もいつ来ても元気が出ていないという気がしている。来年度には、上庄公民館にもなう獅子舞ミュージアムや熊無のお休み処に予算が計上されている。本当にお休み処は日々皆さんが集い、わいわい楽しくなるような施設になるのか。ただ建てただけの施設になるのではないのか。ここに投資する金があれば、市民病院にもう少し投資し、リニューアルして、市民がもっと市民病院での治療を望むようになるようにして欲しい。</p>
助役	<p>我々の十分な説明が行き届いていないためにそのような話が出るのかもしれない。お休み処については、熊無や論田の農山村に住んでいる人たちが物を作ってそこで売りたいという、また、氷見を訪れる人々に買っていただき喜んでいただきたいということも考えた施設である。地域の振興にもつながるということも理解していただきたい。観光サービスにもつながると考える。</p> <p>また、獅子舞ミュージアムも上庄小学校を壊して新しいものを作るのではなく、それを生かしてより使い勝手のいいものにしようというのである。新しく物を作る時代ではないということも行政としては理解しているつもりである。</p>
会長	<p>今までの話をいろいろ聞いたところ、改革には2つの方向があり、ひとつは地方公共団体を取り巻く制度というか環境というものがあり、もうひとつは自治体自身の努力で克服可能なものがある。</p> <p>先のほうは、国の制度そのものに問題があり、借金が地方・国含めて700兆円なのに対し、入ってくる税金は80兆円である。それをまだ起債を増やすという国の制度がおかしいのであり、地方は大統領制であるので、市長と議会が頑張れば問題の克服は可能だと思う。議会も一生懸命やっているし、市長もリーダーシップを発揮していると思う。</p> <p>地方の分についてはだいたいうまく行くものと考え。国の制度がやはり問題である。三位一体の改革といっているが、ツケを地方に回しているだけである。三位一体の改革がはっきりしない以上は、市としての予測は非常に困難で</p>

はないかと思う。そういう問題も含めて、役人たちも今まで握った権力をなかなか離したくないのかもしれないが、やはり地方からもっと働きかける必要があるのではないかと感じた。

発言したい人もいるだろうが、時間になったので市長から最後にまとめの言葉をお願いしたい。

市長

皆さんに感謝したい。まだまだ苦言の一言二言を言いたい顔が伝わってくる。

やはりまだ私どもの努力不足のところがあるので、これはしっかりやっていたかなければいけないと感じた。

もう一点は、もう少し説明をうまく今後ともさせていただきたいと思った。ここにおられる皆さんにも伝わっていないのかということをつくも感じた。私もまちかどトークなどでありとあらゆる場面に出て相当の説明をしているつもりであったが、改めて至らなさを思い知った。もっと市民共通の様々なことについて理解をいただけるようにまだまだ努力をしまいたい。

そして、行政はかなりスリムになってきている。はっきり申し上げて、他の自治体も氷見はこれだけやっているのかというくらい氷見のことをいろいろ勉強していただいているような実態である。それでも氷見は財政が弱いので、まだまだ改革をやらなければいけない。

そうすると氷見とは何ぞやということになるわけで、やはりそこで市民の中で、行政でもない、企業感覚の儲け仕事だけでもない、市民活動・NPOのようなものが市内のあちこちで出てこなければ氷見はつまらない元気の無いまちになると思う。そのことを十分意識しながら、そういう活動が氷見市内で立ち上がりつつある。そういう皆さんにもっともっと元気を出していただけるようにこれからも努力をしまいたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

会長

各位の熱心な議論をいただいたことに感謝したい。本日はこれをもって閉会とする。